

このミッションのルール：

- 特殊ルールなし：通常通りにプレイする。ただし、“X” トークン  で示されているコードは数値順には並んでいないことを忘れずに。
- * 装備の使用：
 - **装備** カードを “X” コードに対して使うことはできない。
 - “X” コードはすべての装備（個人装備、「スーパー探知機（5）」、「なんでもレーダー（8）」を含む）から無視される。

このミッションのルール：

- このミッション中は常に、情報トークン（) の代わりに偶数／奇数トークン  を使う。これは2人での切断に失敗したときと、装備4（ヒント付箋）を使ったときに適用される。

忘れやすいルール：赤コードは“数値”を持っていないので、偶数でも奇数でもない。

このミッションのルール：

- 最初の 2 本の黄コードが切断されたらすぐに、各プレイヤーは（隊長から始めて時計回り順に）ボードから **情報** トークンを 1 枚選び、左隣のプレイヤーに渡す。各プレイヤーは受け取ったトークンを、手札の外側に正しく置く（その数値のコードを持っていない場合、手札の脇に置く）。

このミッションのルール：

- **数値**カードに対応している 4 本のコードは同時に切断しなければならない。
- このミッションの特殊アクション：
数値カードの数値のコードを（装備や「フツノ探知機」を使わずに）4 本指し示す。
 - 成功した場合、それらを切断する。
 - 失敗した場合、爆弾が爆発する！
- 特殊アクションが実行されるまで、各ラウンド終了時（隊長の次の手番の前）に、7 枚の装備カードのうち 1 枚を捨て札にする。特殊アクションが実行されたら、どのコードが切断されているかにかかわらず、残っているすべての装備が利用可能になる。

このミッションのルール：

- このミッション中は常に、情報トークン（）の代わりに× 1、× 2、× 3 トークン（）を使う。これは 2 人での切断に失敗したときと、装備 4（ヒント付箋）を使ったときに適用される。
- 装備 4（ヒント付箋）を使ったときには、これらのトークンを切断されているコードの外側に置くこともできる。

このミッションのルール：

- プレイヤーはコードの数値を宣言することはできない。プレイヤーは数値をほのめかすこと（漢字の画数を示す、音を立てる、指の数で示す、「1週間の日数」と言うなど）をなんでも実行することができる。
- プレイヤーがこのルールを忘れ、数値を大声で宣言した場合、起爆ダイヤルが1スペース進む！ 言葉に気をつけること！

このミッションのルール：

- 自分の手番中、プレイヤーは表向きの**数値**カードを1枚選んで裏向きにしなければならない。そのあと、その数値のコードを（**2人での切断**か**単独での切断**で）切断しなければならない。手番ごとに、各プレイヤーはまだ見えている数値のコードしか切断することができない。
- すべての数値カードが裏向きの場合、すべて表向きにする。
- ある数値のコードが4本すべて切断されたとき、対応する**数値**カードをゲームから除外する。
- 手番プレイヤーの手札に、見えている数値に対応しているコードがない場合、そのプレイヤーの手番を飛ばす（起爆ダイヤルは進まない）。対応しているコードがある場合、プレイヤーは見えている数値のコードを切断しなければならない。

このミッションのルール：

- 最初の 2 本の黄コードが切断されたらすぐに、以下のステップを実行する。

- 1 プレイ人数に等しい枚数の情報トークン (📄) をランダムに取り、表向きで横 1 列に並べて置く。
- 2 各プレイヤーは (隊長から始めて時計回り順に) これらのトークンのうち 1 枚を選び、手札の外側に正しく置く (その数値のコードを持っていない場合、手札の脇に置く)。

このミッションのルール：

- ラジネス隊長は**装備**カードを使うことはできない。また、隊長は個人装備も持っていないことを忘れないように！
- ラジネス隊長が**2人での切断**に失敗した場合、爆弾は即座に爆発する。
- ラジネス隊長は装備 2（イレカエシーバー）と 8（なんでもレーダー）の効果に参加することはできる。

このミッションのルール：

- 各プレイヤーの手番は以下のように進行する。
 - ① 手番プレイヤーの右隣のプレイヤーは、自分の**数値**カードのうち 1 枚を裏向きでテーブル上に置く。
 - ② 手番プレイヤーは通常通りに手番を実行する。
 - ③ 裏向きで置かれた**数値**カードを表向きにする。手番プレイヤーがその数値のコードを切断していた場合、起爆ダイヤルが 1 スペース進む。
 - ④ 手番プレイヤーはその**数値**カードを得る。
- 同じ数値の 4 本のコードが切断されたら、対応する**数値**カードを捨て札にする。
- 数値カードが 1 枚だけになったプレイヤーは、山札から別のカードを 1 枚得る（その数値のコードがすべて切断されている場合、捨て札にして引き直す）。
- 切断すべきコードの数値が 1 つだけになったとき、最後の**数値**カードを即座に捨て札にする。
- 装備を使って複数のコードを指し示した場合、実際に切断されたコードの数値が公開された数値カードと一致したときにのみ、起爆ダイヤルを 1 スペース進める。

このミッションのルール：

最初の手番の前に音声ファイルを再生すること：



失敗：ドカーン！ 幸いにも君たちは
2回目のチャンスを得た！ 音声ファイルをもう
一度再生し、もっとスピードを上げること！



成功：おめでとう！ 警察は悪い狼に追いつ
いて逮捕し、必要なすべての証拠を入手した。奴
にとってはかなり厳しい状況だろう。君たちの冒
険は続く——

「ミッション 31-42」のサプライズボックスを
開けること。